

# きょうは「こどもの日」

5日は「こどもの日」。1948(昭和23)年に5月5日の端午の節句が国民の祝日の1つに定められた。男の子の健やかな成長を願い、かしわ餅(もち)を食べたり、五月人形を飾るなど

の各種行事を行っている。「端午」は、月初めの日(5日)のこと。中国では、陰暦の5月が物忌みの日だったことから、5月5日を「重五」と呼び、病気や災厄を祓(はら)う日とした。

## わが子の健やかな成長願い

## こいのぼり、五月人形飾る

旧暦5月は高温多湿で、人々は伝染病や害虫などに苦しめられた。古代中国は、重五に野で薬草を摘んだり、ヨモギで作った人形を飾ったり、菖蒲(しょうぶ)酒を飲み、邪気払いした。

中国の風習と結びついて菖蒲湯に入る習わしが生まれた。端午の節句が男の子の成長を願うまつりになったのは、江戸時代になってから。武家社会になると、菖蒲を「尚武」に通ずるとして、勇ましい象徴としてみられるようになった。このころから家紋入りの旗指し物ののぼりや吹き流しが飾られ始めた。

この風習が奈良・平安時代の日本に伝わり、貴族の生活の中に取り入れられたのが、端午の節句の始まり。日本では古くから農村でヨモギやシヨウブを厄よけに飾る伝統があり、人にも広がり、疫病

を祓う神の鍾馗(しょうき)を描いたのぼりや、こいのぼりを立てるようになった。

こいのぼりを立てる風習は、中国の故事にちなみ、男の子の立身出世を願っている。



五月人形の数々



元気いっぱいな子供たち、健やかな成長は誰もの願い(明照保育園で)

